

平成22年度第3回 地域ぐるみの教育推進委員会概要

日 時 平成23年3月3日（木） 18：00～20：30

場 所 大会議室（市本庁舎7階）

1 開 会

進行 曾我委員長

2 教育長挨拶

3 議題

(1) 平成22年度未来へつながる学校づくり推進事業の成果報告について

参考資料 平成22年度未来へつながる学校づくり推進事業の成果報告会

野菜のバスケット栽培

平成22年度未来へつながる学校づくり事業内容一覧

○プロジェクターを使用して早川小学校、橘中学校、事務局から今年度実施した事業内容について説明

○プロジェクターを使用して事務局からスクールボランティア活動を報告

○質疑、意見

- ・早川小学校の取り組みの中で、50年代の学校林を活用できたということであったが、実際に中心になったのは教員なのか、それとも地域の方なのか。さらに、この事業を進めていく中で見えてきた課題はあったのか。
- ・（城南中学校区代表）中心となっているのは地域の方のように思う。前任の校長が、学校林の木材を活用して何かができないかと考え、地域の方にお願いしたようである。自分も参加した際には、多くの地域の方に関わっていただいていた。
- ・日程調整や製材所との連携等、相当に時間がかかっているのではないか。
- ・（城南中学校区代表）年度当初に森林組合や地域の方と、1年間を通しての綿密な予定を組んでいるようである。
- ・（事務局より）地域、スクールボランティア、学校で協力しながら進めているところであるが、製材等も含めて、教育委員会からの予算だけでは賄いきれないほどの金額がかかっているようである。それも含めて、地域の方の力が多々あると聞いている。
- ・事業の内容的には素晴らしく、各学校が色々な取り組みをしているということが分かった。ただ、以前とは違い、学校と地域の関わりが多岐にわたっているように思うが、課題や問題点が報告からは伝わってこなかった。学校独自の問題や地域との問題等、色々な課題があると思うが、今後はその部分についてきちんと考えていかなければならないのではないかと思う。

- ・各学校や地域の特性を生かした素晴らしい事業を全校が実施していることに對しては非常に感心した。しかし、取り組む前と後とで子どもや学校が変わった部分などの成果や、逆に課題として残った部分などが一番聞きたい部分であったが、報告の中にはなかったのが気になった。きっと見えてきている部分はあるのだろうが、事業の成果や課題がないと次に進まないという感じがする。
- ・(事務局より) 報告が足りない部分で申し訳なかったと思う。本事業については、全校をまとめた冊子を作成予定であり、その中に、成果としてどのようなことがあるのか、次年度に向けてどのような課題があるのかを載せる予定であるので、機会があればご覧いただけたらと思う。

(2) 平成22年度学校支援地域本部事業成果報告会について

参考資料 平成22年度学校支援地域本部事業実践集録

- 事務局から全体の概要について説明
- 各中学校区(白山・城南・鴨宮・酒匂)より、平成22年度の1年間の活動について説明(学校代表者・コーディネーター代表者)
- 質疑、意見
 - ・(チーフコーディネーター) スクールボランティアの取り組みを小田原市全体で始めたのは平成18年度なので、ここで5年になるが、多くのボランティアの方の協力を得て、本当に定着していると感じている。スクールボランティア活動にはコーディネーターの役割がとても重要であるが、中学校区での連絡会の開催等によって、他の学校の活動を自分の学校でも取り入れてみたり、地域の情報を共有したりと、色々な苦勞をしながらも活動していただいている。ある中学校区ではコーディネーターが地域の自治会や育成会の会合に出席し、そこでコーディネーターやスクールボランティア活動の紹介をさせてもらい、それによって、地域との関係が縮まったと聞いている。また、ある学校では「できる時にできることを」ということを合言葉に活動しているが、少しずつの活動の積み重ねで、学校と地域が近くなり、子どもたちも地域の方と自然に関わることができるようになってきたとも聞いている。子どもたちが自然に地域の方と関わることによって、子どもたちと大人が自然に挨拶や会話ができるような地域がこの活動を通じて広がっていくと良いと思う。
 - ・(チーフコーディネーター) チーフコーディネーターの主な活動の中に学校訪問があるが、今年は中学校区での連携を目的とした具体的な取り組みやコーディネーター連絡会等の様子等を中心に見させていただいた。ほとんどの中学校区でコーディネーター同士の連絡会を開催しており、他校の参考になる活動を取り入れたり、他の学校での活動に参加したり、合同でボランティアだよりを発行したりと、横の繋がりが深まってきたと感じている。また、

今年は幼稚園訪問も行ったが、幼稚園でも地域に根ざしたボランティア活動がたくさん実施されていると感じた。また、小中学校の児童生徒の交流も深まっており、運動会等の様々な活動を参考にさせていただくことができた。このように色々と得た情報を、チーフコーディネーターだよりなどで今後も発信していきたいと思っている。

- 保育園でも支援が必要な子どもが増えており、一人の職員だけでは対応できないケースがあるので、保育園でもこのような取り組みが必要なのではないかと感じた。また、小学校には公立幼稚園や公私立保育園だけでなく、私立の幼稚園からも子どもが進学するため、私立幼稚園についても事業展開していったほうが良いのではないかと。
- 公立幼稚園代表として二点ほど話させていただく。一点目としては、これまでは地域の方々にボランティアを依頼する場合は、園長が中心になっていたが、来年度以降は幼稚園にもコーディネーターが配置されるということなので、地域の方の協力を今まで以上に得ながら、豊かで充実した幼稚園教育が展開できるように努めていきたいと思う。二点目は、昨年度からこの委員会で色々な意見を伺い、大変勉強になったので、それを今後に生かしていきたいと思う。
- (白山中学校区コーディネーター) 先ほどの城南中学校区の報告の中で、ボランティアに対する謝礼の話があった。白山中学校区でも環境ボランティア等で、土木・植木・電気関係の仕事をしている方に活動していただいておりますが、そこでは経費がかかっているが、学校側から請求して欲しいと伝えても、皆さん請求してくださらない。そのような状況が大変心苦しく、次回以降も依頼することが申し訳なく感じているところであるが、昨日のPTA総会の中で、ある保護者の方から、PTAの特別会計をボランティアに充てて欲しいという意見が出た。PTA会員の中からそのような意見が出るのはとてもありがたいことだと思った。
- 今日の報告を聞いて、スクールボランティア活動というものは、地域と学校と子どもたちに直で接していると感じた。城山中学校PTA運営委員の中にもコーディネーターの方がおり、常置の委員会と同等の予算は配分しているが、予算は大いに越したことはないので、学校や運営委員の方とも相談して、今後は運営委員会の中に所属させて、うまく共存していければ良いと思う。
- (白山中学校区コーディネーター) PTAの役員の方にもスクールボランティア活動に参加し、バックアップしていただければとてもありがたいと思う。
- 地域関係のボランティア活動や学校支援の活動の中で、PTAはどのように役割や使命を果たしていくのかということは今後、色々な形で話題になり、問われてくるような気がする。従来、PTAと学校が一体となって行っていた部分が、もちろんPTAも入っているのだろうが、学校と地域が直結した関係に移行していったような印象が強く残った。

また、資料112ページにあるが、先ほどの鴨宮中学校区の発表の中で、幼小中一体教育を含めた中学校区全体の一体教育推進計画を体系的に作られ、それを組織化されたということは、今までにない進め方であると思うし、今後の学校教育や地域一体教育の中で、大いに注目できるものだと思う。

(3) 平成23年度学校支援地域本部事業について

参考資料 平成23年度学校支援地域本部事業

- 事務局から来年度の事業の方針、概要等について説明
- 質疑、意見
 - ・質疑、意見なし

(4) その他

- ・曾我委員長より1年間の活動のお礼。

4 閉会